

II. 雲のいろいろな顔 一見え方・形（種と変種）による細分類一

10種の雲はさらに、見た目の形・配列あるいは雲の一部に現れた特徴的な形によって分類される。例えば、同じ高積雲でも形状がレンズ状であれば「レンズ雲」、並び方が波のように縞になっていれば「波状雲」、雲底が乳房のように垂れ下がっていると「乳房雲」となる。これらは、「高積雲のレンズ雲」や「波状高積雲」のように「○○雲の□□雲」あるいは「□□状○○雲」などという呼び方をする。

①毛状雲 巻雲・巻層雲



夕日に照らされる毛状の巻雲と幻日 2005.3

白く、ほとんど直線か、ややカーブした形の繊維状の雲。雲の先端がまっすぐ伸びているのが特徴。



毛糸状の毛状巻雲 2006.10

②鉤状雲 巻雲

雲の先端が鉤状に曲がった雲。上空の雲が強い風で雲が引っ張られてできると考えられている。

巻雲の典型的なかたちとして知られ、多くの書籍・資料で紹介されているが、はっきりとした鉤状の巻雲が空を覆うことはそれほど多くない。

鉤状の巻雲 2006.6



③濃密雲 巻雲



一般に薄い繊維状であることが多いが、たまに大変濃い名前の通り「濃密」なものが見られる。雲の輪郭が巻雲の特徴である繊維状であるため、他の雲と見分けることができる。

濃密巻雲 2006.9

④もつれ雲 巻雲

空で白い毛糸が様々なかたちになって、もつれたような状態の巻雲をもつれ雲という。かたちはとらえどころがない。

上空の風が弱いときに発生しやすく、この雲が出た後は晴天が続く場合が多いといわれる。

空に雲のなぐり書き 2005.5

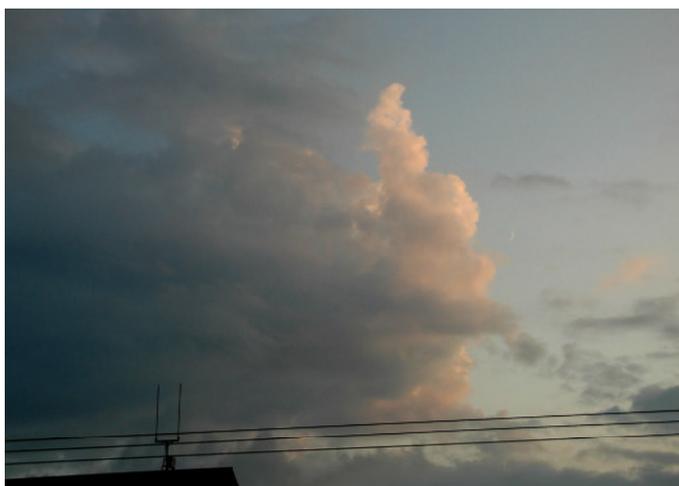


⑤塔状雲 巻雲・巻積雲・高積雲

雲の上部が垂直に立ち上がっている雲。上空に寒気が流れ込んで、大気が不安定になっている証拠でもあり、天気は崩れやすい。右の写真が見られた数時間後には大きく天候が崩れた。



頂部が塔状に盛り上がった積雲 2004. 8



塔状になった層積雲の雲頂 2006. 8

巻雲、巻積雲、高積雲に見られるが、塔状に盛り上がった積雲を塔状積雲と呼ぶことがある(左)。

⑥肋骨雲 巻雲



文字通り魚の肋骨のように見える雲。中心に背骨にあたる分があり、そこから肋骨が伸びているように見える。

巻雲にのみ見られる、特徴的な形の雲である。

⑦房状雲 巻雲・巻積雲・高積雲

巻雲では雲の先が丸くなっているもの、巻積雲・高積雲ではその名の通り、ひとつひとつの雲片が丸くまとまっているものを「房状」と呼ぶ。

あまり現れない形状の雲。



房状の高積雲 2005. 10



房状の巻雲 2005. 6

⑧ レンズ雲 巻積雲・高積雲・層積雲



雲の輪郭がはっきりとレンズのような形をしている雲。この雲が見られるときは上空の風が比較的強い。

また、山などの地形の影響でできることもあり、特に山に風が当たって山の上でできるレンズ雲を「笠雲」(P. 19) と呼ぶ。

高積雲が変化したレンズ雲2005. 9

⑨ 蜂の巣状雲 巻積雲・高積雲・層積雲

雲に蜂の巣のように穴があいている雲。穴の部分には下降気流が発生しており、雲そのものが消滅していくことも多い。大変変化が激しく、あまり見ることができないので、雲の変化に気をつけていることが大切。

下降気流の存在するところにてできるため、晴れを暗示する雲だとも言われている。

蜂の巣状の高積雲 2003. 12



⑩ 波状雲 巻積雲・巻層雲・高積雲・高層雲・層積雲・層雲



その名の通り、波のように列を作っている状態の雲。上空の2つの空気の層の風の速さや向きの違いによってできる。

よく見ることができるが、まれに全天を覆うこともあり、そのときはすばらしい眺めになる。



↑ 全天を覆う波状の高積雲
2004. 4

← 2006. 2

波状の巻積雲 2006. 1 →



⑪乳房雲 巻積雲・高積雲・高層雲・層積雲・積乱雲



乱層雲の雲底にできた乳房雲 2005. 11

雲底からこぶ状に垂れ下がっている雲。雲底で下降気流や渦流が発生しているときにでき、大雨の前兆ともされる。



夕日に照らされる乳房雲 2004. 7

⑫尾流雲 巻積雲・高積雲・高層雲・乱層雲・層積雲・積雲・積乱雲



高積雲の尾流雲 2006. 10

雲の底が下に落ちるように下がったり、ななめ下に尾を引いたように伸びている雲。雲から落ちている雲粒（水滴）が流され、地上に落ちる前に蒸発して消えている状態の時にできることが多い。



層積雲の尾流雲 2006. 11

⑬アーチ雲 積雲・積乱雲

主に積乱雲からの寒気の吹き出しによってできる雲。波のように押し寄せてくるように見える。



魚眼レンズで撮影した寒冷前線の通過（上）と寒気の吹き出しでできたアーチ雲（右） 2003. 4

寒冷前線の通過とともに移動してくる積乱雲によってできる事が、日本海側では、冬期に寒気が北東から押し寄せてくるため、この雲が海岸線に沿ってできることも多い。



⑭二重雲 巻雲・巻層雲・高積雲・高層雲・層積雲



高さの異なる2層の雲が重なって見える状態を二重雲という。左の写真は高さの違う2つの高積雲の二重雲。上層の高積雲の影が下層の雲に映って、下層の雲がまだらに見える状態。

高積雲の二重雲 2003. 9. 18

⑮放射状雲 巻雲・高積雲・高層雲・層積雲・積雲

平行にできた雲が空を覆うとき、遠近感によって空の一点から放射状に広がっているように見えることがあり、このときの雲を放射状雲と呼ぶ。



積雲・積乱雲の雲頂に帽子をかぶせたように乗っている雲を頭巾雲という。

下から雲と一緒に勢いよく上昇する気流で、空気が押し上げられてできる。これがさらに大きく広がったものをベール雲という。

⑯ベール雲・頭巾雲 積雲・積乱雲



積乱雲の雲頂にできたベール雲 2006. 8

⑰かなとこ雲

雄大積雲がさらに発達し、雲頂が圏界面に達すると、上へ成長できずに横に広がるようになる。これを、金工などに使う金床に似ていることから「かなとこ雲」と呼ぶ。



夏の強い日差しによってできたかなとこ雲 2003. 8

冬期の積乱雲のかなとこ雲 2006. 1

積雲はその発達程度により3つに分けて呼ぶことができる。

⑱ 扁平雲 積雲

雲の上部(雲頂)が発達しておらず、平らで薄っぺらい、いわば積雲の子ども。地表が太陽で暖められたりして、上昇気流が強くなると、並雲に、さらには雄大雲へと発達していく。



扁平雲 2006.9



扁平雲 2002.8

⑲ 並雲 積雲

シュークリームのように雲頂部分が盛り上がっている、積雲の典型的な形。



空を大きく覆う並雲の群れ 2006.9



上部がドーム状に盛り上がっている並雲 2006.8

⑳ 雄大雲 積雲

激しい上昇気流によって積雲が発達したものが雄大積雲と呼ばれる。夏の代表的な雲で、入道雲と呼ばれる雲はこの雲である。

これがさらに発達し、雷や雨を伴うようになると積乱雲と呼ばれるようになる。

夏、地表が暖められてできた雄大積雲
2005.8

